

第1学年3組 音楽科学習指導案

日 時 平成28年10月13日(木) 第2校時
在籍数 男子15名 女子19名 計34名
指導者 教諭 井上 麻未

1 題材名 「表情豊かに表現を工夫し、合唱しよう」

2 題材について

(1) 教材観

本題材は学習指導要領との関連 A 表現 (1) 歌唱 ア、ウに即して進めていく。特に、歌詞の内容や曲想、作詞・作曲者の思いを感じ取らせ、それらをもとに表現を工夫していく学習を中心に展開していく。

本題材では、歌詞の言葉の意味や歌詞が表す情景や心情、歌詞の成立の背景に関心をもち、歌詞と音楽とが様々に影響し合い、楽曲としての表現が生み出されることに気付かせたい。そして、音楽を形づくっている要素や構造の働きをとらえ、速度や強弱の変化をどのように工夫するかなど、よりよい表現方法を見出して歌うことができるようにしたい。また、全体の響きを感じ取り、歌うための呼吸法や曲想に合った発声方法など、身体の使い方の技能習得を図る活動を取り入れたいと思い、本題材を選んだ。

(2) 生徒観 (省略)

(3) 指導観

これまでの歌唱の活動として、斉唱と混声二部合唱を経験しているが、今回、初めて混声三部合唱に取り組む。合唱の取組を通して、生徒たちは歌うことの楽しさや協力して音楽を創り上げていくことの喜びを実感しているが、歌詞の内容や曲想を感じ取って表現につなげることまではできていない。

そこで、パートやグループでの話し合い活動や発表する活動を積極的に取り入れて、歌詞の内容や曲想に関心をもち、表現を工夫しながら合唱することを目指したい。また、合唱祭への参加を通じて、たくさんの合唱曲に触れ、合唱の素晴らしさを感じ、より高度な表現ができるような意識づけを図りたい。そして、表現力と合唱を愛好する心情を育て、自ら進んで課題を見つけられるように指導していきたい。

3 学校研究主題との関連

- (1) 研究主題 「自ら考え、学び合い、確かな学力を身につけた生徒の育成」
～基礎・基本の定着を図る学習指導の工夫～

(2) 研究主題実現のために

授業を構成する上での3つの柱： ア 基礎・基本の定着
イ 教材・教具の工夫（ICT機器の活用等）
ウ 「学び合い」活動、アクティブ・ラーニング

◎本日は、ウ「学び合い」活動に焦点をあてた授業を展開する。

豊かな表現力を身につけるために、自分の考えやイメージが広がるようなキーワードを提示し、小グループで話し合い活動や発表する活動を積極的に取り入れていく。いろいろな人の考えや意見を聞き、主体的に学び合い、表現・伝達する力を育成させる。

4 題材の目標

- (1) 歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組む。(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。(音楽表現の創意工夫)
- (3) 歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きを生かした音楽表現をするための技能を身につけて歌っている。(音楽表現の技能)

5 教材について

「涙をこえて」 作詞 かぜ耕士 作曲 中村八大 編曲 加賀清孝

この曲は、悲しい出来事があり、つらい時は、すぐに気持ちを切り替えることはできないかもしれないけれど、いつかそれを乗り越えて前向きに生きようと、明るく、歌っていると自然と元気が出てくる曲であり、生徒からも親しまれている。四分の四拍子の曲で、音域の幅が広く、声変りをしたばかりの男子の低い音程は難しい部分もあるが、歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うことを目指したい。さらに、気持ちを込めて合唱することによって、音楽がより豊かな表現に変わることを実感させていきたい。

6 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連と具体的な学習活動

指導事項	歌唱ア 歌唱ウ	歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。
〔共通事項〕ア	旋律・テクスチャ	速度・強弱・リズム
イ	和音・フレーズ	
主な学習活動	- 声部の役割と全体との関わりを理解し、表現を工夫する。 - 全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌う。	曲にふさわしい表現（声部の役割や曲想）を、歌詞の内容や音楽用語をふまえながら自分なりに考えて工夫する。

7 評価規準（題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準）

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の 評価規準	①歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽表現を工夫して歌う学習に意欲的に取り組んでいる。 ②声部の役割や全体の響きを感じ取り、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組んでいる。	①声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。 ②さまざまな合唱のもつよさを感じ取って演奏に生かしている。	①歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけて歌っている。 ②声部の役割や全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけて歌っている。
時			
1	①		
2	①		
3	①		
4		①	
5		①	①
6		①	
7	②		②
8		②	②

8 指導と評価の計画（8時間扱い）

時	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆学習活動に即した評価規準【方法】
1 ・ 2	〈第1次〉 ○模範演奏を聴き、流れをつかむ。 ・メロディーラインのチェックをする。 ○各パートで音取りをする。 ・パートリーダーを中心に、パート練習をする。	○曲の雰囲気全体を全体的にとらえさせる。 ☆ア①【自己評価カード、活動観察】 ○次の点に留意して歌わせる。 ・のばす音符や休符の扱いに留意させる。 ・言葉の響きや発音（鼻濁音など）を意識させる。
3	〈第2次〉 ○パート練習により、各パートの音程を正しく理解する。 ・自分の苦手な箇所（他のパートにつられてしまう所や音程が取りにくい所）を把握する。 ○全体合唱をする。	○難しい場所を中心に取出して練習させる。 ・つられてしまう所や音程が取りにくい所を確認し、重点的に練習させる。 ☆ア①【自己評価カード、活動観察】 ○全体で合唱をして、それぞれのパートの到達度を振り返らせる。
4	○音楽用語の確認をする。 ・楽譜で強弱記号をチェックする。 ○クラスで合わせの練習をする。 ○全体合唱をする。（録音する。） ○録音を視聴する。 ・個人で表現について考え、表現への思いや意図をワークシートに書き込む。	○音楽用語を把握して、強弱の表現ができるようにさせる。 ○合唱を聴いて客観的に振り返り、一人一人が自分の言葉で表現をまとめさせられるようにする。 ☆イ①【ワークシート、発言】
5 本 時	〈第3次〉 ○パートごとに話し合いをする。 ・前時に記入したワークシートを持ち寄り、パートごとに改善点や、よりよい表現に向けた意見交換をしてまとめた後、練習をする。 ○パートごとに話し合ったことを発表する。 ○クラスで意見を交換し、どのように歌うかを話し合う。 ○全体合唱をする。（録音する。）	○一人一人が思いや意図を伝え合うことができるようにさせる。 ・強弱などの表現方法を考えるだけでなく、どのような曲想にするかという思いや意図を実現させるための表現方法を考えさせる。 ○表現方法を工夫した点が伝わるように発表させる。 ☆ウ①【発言、ワークシート】 ○他者の考えを受け止め、自分の考えを発表できるようにさせる。 ☆イ①【発言、ワークシート】
6	○録音を視聴する。 ・話し合う前と後の合唱の録音を聴き比べて、どのように表現が変わったかを話し合う。 ○個人で表現について考える。 ・合唱する時に注意することを、自分の言葉でまとめる。 ○全体合唱をする。	○以前の合唱を聴いて変わった点や、それぞれのパートのよい点やクラスの演奏に生かしていきたいことを各自でまとめ、全体合唱で生かせるようにさせる。 ☆イ①【発言、ワークシート】 ○パートリーダーが代表で合唱を聴き、改善点を発表し、教師主導で直していく。

7	〈第4次〉 ○2つのチームに分かれて、合唱練習をする。 ・ワークシートや楽譜をもう一度見直し、聴いている人に伝わる表現ができるように練習する。 ○2つのチームがそれぞれ合唱し、相互評価をする。	○細かい所を歌詞カードや楽譜、ワークシートでチェックして、表現が工夫できるように練習させる。 ☆ウ②【活動観察、グループ活動】 ○今までの練習成果を踏まえて、演奏に対してのよい点や改善点をまとめて発表できるようにさせる。 ☆ア②【活動観察、グループ活動、ワークシート】
8	○合唱祭りハーサル（体育館） ・本番の流れを確認する。 ・他のクラスの演奏を聴き、自分たちの合唱と比較し、改善点を考える。	○本番に向けての心構えや態度を養う。 ・他のクラスの現状を知り、よい合唱を参考にして、本番までの練習計画を立てさせる。 ・入場や退場も含め、本番と同じ気持ちで臨むようにさせる。 ☆イ②【ワークシート】 ☆ウ②【活動観察、ワークシート】

9 本時の学習指導（第5／8時）

（1）本時の目標

- ・声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。（音楽表現の創意工夫）
- ・歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけて歌っている。（音楽表現の技能）

（2）本時の展開

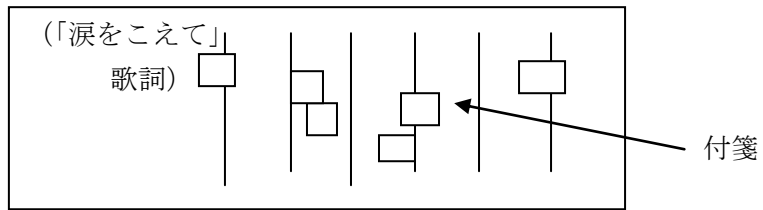
段階	○学習内容 ・ 主な学習活動	○指導上の留意点 ◎評価規準（観点）【評価方法】 ★教材・教具の活用（ICT活用） ・ 授業規律 ◆「学び合い」活動（言語活動）
導入 10分	○授業開始の号令を行う。 ・チャイム前着席、持ち物点検。 ○発声練習をする。 ・学年合唱曲「夏の日の贈りもの」合唱。 ○本時の課題を確認する。	・「チャイム前準備」「チャイム前着席」「しっかりとした挨拶」に留意させる。 ○発声練習を兼ね、音程、言葉の発音、各パートのバランスを意識させて歌わせる。 ○目標を提示し、意欲的に取り組むように意識させる。
展開 30分	○前時の録音を聴く。 ・自分たちの演奏を客観的に批評する。 ○パートごとに話し合いをする。 ・前時に記入したワークシートを持ち寄り、パートごとに改善点や、よりよい表現に向けた意見交換をしてまとめた後、練習をする。	★合唱を聴いて客観的に振り返り、自分の言葉で表現を考えさせられるようにする。 ◆一人一人が思いや意図を伝え合うことができるようにさせる。 ○強弱などの表現方法を考えるだけでなく、どのような曲想にするかという思いや意図を実現させるための

	る。 ・話し合ったことを付箋に記入する。 予想される生徒の反応 A 自分の思いや意図をしっかりとち、話し合い活動に積極的に参加している。改善点を明確にし、パート内で中心となって練習をしている。 B 自分の思いや改善点を考え、話し合い活動に参加している。曲に合った表現をしようと意欲をもって練習をしている。 C 改善点が見つからない。パート練習でも積極的な活動が見られない。 ○パートごとに話し合ったことを発表する。 ・発表しながら、付箋を拡大歌詞に貼っていく。 ○クラスで意見を交換し、どのように歌うかを話し合う。 予想される生徒の反応 A 他者の考えを受け止め、曲に合ったよりよい表現の工夫を考えて、自分の言葉で積極的に発表している。 B 曲に合った表現を考えて、ワークシートに書くことができる。 C 改善点が見つからない。	表現方法を考えさせる。 ◎表現方法を工夫した点が伝わるように発表させる。 ◎ウ①【発言、ワークシート】 →A への手立て 意見が一番多い部分に注目させ、曲に合った表現になるように、取り出して練習させる。 →B への手立て 小さな気づきでも自信をもって、自分の言葉で表現できるようにさせる。 →C への手立て 1つでも改善点を見つけ、話し合いに参加するように支援していく。 ◎他者の考えを受け止め、自分の考えを発表できるようにさせる。 ◎イ①【発言、ワークシート】 →A への手立て どのように歌うと曲に合った表現ができるのかを考えさせる。 →B への手立て ワークシートの書き込みを参考に、自分の言葉で表現できるようにさせる。 →C への手立て 1つでも改善点を見つけられるようにキーワードなどを提示し、支援していく。
まとめ 10分	○全体合唱をする。(録音する。) ○学習を振り返り、自己評価カードに理解したことと次回への課題を記入する。	○自分の意見を持って話し合いに臨むことができたか、意欲的に参加することができたか、振り返って記入させる。

10 板書計画例

課題

声部の役割や歌詞の内容を理解して、表現の工夫を考えよう。



「涙をこえて」の表現方法を考えよう

1年3組 番 パート 氏名

①パートで話し合ったことをまとめよう。

②他のパートで出た意見をまとめよう。

③クラスで話し合った表現方法をまとめよう。

④自分たちの合唱を聴き、感じたこと、以前と変わったことをまとめよう。

⑤合唱する時に注意することを自分の言葉でまとめよう。

⑥相互評価をしよう。（相手のチームの良い所や改善点をまとめよう。）